

「比べる」ことでせまる音楽の魅力
～思いや意図をもって表現できる子どもに～(1年次)

1. 研究テーマ設定の理由

(1) 学校提案とかがわって

「小グループにおける協同的な学び」は、これまで音楽科で実践・実証を重ねてきたところである。「ジャンプある学び」成立の要件として、目標設定をはじめ教材選択や課題設定の良否が大きく影響することがいま明らかになっている。学習課題を、それぞれ子どもたちが自己の課題へと導き対話を深めていくために、「比べる」というキーワードを用意した。

まずは今年度の重点目標「課題に向かう対話を深める」にあたって、音楽科でとらえる「対話」についていくつか意見を述べておきたい。①著名な指揮者であり音楽学者でもあるニコラウス・アーノンクール(1929～/オーストリア)の近著『音楽とは対話である』(2006)のタイトルが示すように、音楽作品そのものが「対話」によって構成されているばかりでなく、表現に際しても様々な「対話」が要求されているのではないかと。②「対話」という視点を音楽の授業活動の中に取り入れることで、音楽がもつ本質的なもの(部分)に触れることができるのではないかと。③さらに「比べる」をキーワードにすることで、音楽作品に内在する様々な「対話」、音楽活動における人間(演奏する子どもたち)同士の「対話」が顕在化するのではないかと。

(2) 音楽科でめざす子どもの姿

「音楽が好きだ・歌いたい・演奏したい・作りたい・いろんな音楽を味わって聴きたい」さらに「仲間と一緒に歌ったり演奏したりしたい・仲間が好きな音楽にも興味がある・仲間の音楽表現にも興味がある・気持ちを込めて音楽を表現したい」子どもをめざす。

そのためには、音楽的「知識(knowledge)」「技能(skill)」「能力(ability, capacity)」の3つがバランスよく身に付いていることが必要になるであろう。そこで音楽科がめざす子どもの姿を次のようにした。

音楽的「知識(knowledge)」「技能(skill)」「能力(ability, capacity)」の3つが、
音楽的関心・意欲・態度に支えられてバランスよく身に付いている子ども

これら3つの力を身につけることで、自分に合った生活スタイルを見つけ、自分を音楽で豊かにし、生涯音楽の基盤を手に入れようとする子どもになっていくと考える。同時に工夫して音楽を表現したり、仲間とのかかわりからも自分の音楽的世界を広げていったりする子どもが育つと考えている。

本校の子どもたちに目を移すと、よく歌いよく表現する。これには「リクエスト・タイム」(全学年で個人持ちの歌集・3訂版『歌はともだち』から子どもたちのリクエストで歌う活動)が大きな効果を生んでいるからだ。歌のレパートリーが非常に多く、音程を正しく取ることができたり、聴いてすぐに歌えたりする子どもがほとんどである。

しかしながら、楽曲を成り立たせている諸要素を比べて聴いたり、思いや意図をもって音楽的に表現したり、音符や記号から音を思い浮かべて表現したりする活動では、まだまだ課題が多い。そこで、昨年度までの2年間はテーマ《楽しく学ぶ音楽の基礎・基本》を掲げ、「器楽」「音楽づくり」の基礎となる音符や記号、記譜を低学年から連続して扱う(書く)ことで定着を試みた。さらに「作る」活動から視奏力を高め、高学年での旋律づくりやふしの重なる学習へとつなげる事例研究を行った。

◎今年度はこれらを一步進めて「思いや意図をもって表現する」方略を、「音楽的」「対話」「比べる」をキーワードに事例研究によって明らかにしたいと考えている。

2. 音楽科学習における「学びの質の高まり」

音楽科学習における「学びの質の高まり」とは、①学習したことが使えるようになることと、②学び続ける目標がもてること、すなわち音楽の学習を通して基礎的・基本的な知識、技能を確実に身に付け、活用力を育むとともに、目標感をもってさまざまな音楽とかかわりをもつことだと捉えている。

ここで新学習指導要領（平成20年3月告示）に記載された〔共通事項〕（抄）に着目したい。

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、面白さ、美しさを感じ取ること
- ・身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について音楽活動を通して理解すること

〔共通事項〕は思いや意図をもって音楽を表現したり鑑賞したりするための基になると捉えることができよう。これらは、すぐに身に付くものではなく、定着するためには繰り返し指導を行う必要がある。加えて具体的に「書く」という活動も必要となろう。

3. 研究の展望

音楽科では、子どもたちが質の高い音楽的な力を身に付けるために、「比べる」をキーワードに表現及び鑑賞の楽しい活動を通して、音楽の魅力にせまりたい。思いや意図をもって表現できる子どもを育てるために、以下の方法で楽しみながら学びの質が高まることをめざす。

- ①いろいろな演奏を聴き比べるために必要な教材や資料を収集する。
- ②表現と鑑賞の活動において、「比べる」学習の筋道を明らかにする。
- ③「比べる」活動を「対話」とリンクさせる。

課題A 《4つの活動領域》「歌唱」「器楽」「創作（音楽づくり）」「鑑賞」

課題B 《育てたい力》音楽的「知識(knowledge)」「技能(skill)」「能力(ability, capacity)」

* 「関心・意欲・態度」は上の3つを支えていて不可分である。

課題C 《質を高める指導法等の開発》 ～どのように比べるか～

◆本研究で明らかにすること

課題A 「どの教材で」⇒課題B 「どの力を」⇒課題C 「どのように比べれば」育つか

さらに、すべての子どもたちが学習内容を身に付けていくために、グループでの活動を取り入れる。それぞれの子どもの多様な「感じ」を共有し、「気づき」を課題に協同的な学びを作っていく。

4. 研究の評価

- ①「比べる」活動を行うことで子どもたちの学びが変化したか。その変化を表現にいかすことができたか。
- ②「比べる」活動を行うことで子どもたちが思いや意図をもって表現することにつながったか。
- ③課題プリントの使用や一覧表示によって、すべての子どもたちの学びが変化したか。とりわけ「努力を要する」と判断した子どもの学びが改善されたか。また学級の子どもの学びが、客観的に変化の様相を見せたといえるか。
- ④座席配置の工夫や子ども同士を結びつけることで、すべての子どもたちに学習の深まりが見られたか。とりわけ「努力を要する」と判断した子どもたちが改善されたか。